

# 池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2001年度

2002年3月

池田市教育委員会

## 序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近今はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展してまいりました。

しかしながら、このような開発、発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、かつての面影がしづぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えることが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国ならびに、大阪府の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただきました。心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成14年3月

池田市教育委員会

教育長 長江 雄之介

## 例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成13年度国庫補助事業（総額1,000,000円、国庫50%）として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 本年度の調査および期間は下記のとおりである。

宮の前遺跡第32次発掘調査	池田市石橋4-304-3	平成13年4月27日～5月9日
宮の前遺跡第33次発掘調査	池田市石橋4-304-12, 13	平成13年6月8日～6月13日
宮の前遺跡第34次発掘調査	池田市石橋4-304-11	平成13年6月20日～6月25日
鉢塚古墳 第1次発掘調査	池田市鉢塚2-234-6	平成13年7月30日～8月7日
鉢塚古墳 第2次発掘調査	池田市鉢塚2-234-5	平成13年9月25日～10月5日
3. 調査は、池田市教育委員会教育部社会教育課文化財担当が実施し、中西正和が現地を担当した。
4. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては野村人作・辻美穂の協力を得た。
5. 本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所 色票監修）による。
6. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々に深勘なるご理解、ご協力をいたいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

## 目 次

I	歴史的環境	1
II	宮の前遺跡発掘調査	5
	はじめに	5
	宮の前遺跡第32次発掘調査	6
	宮の前遺跡第33次発掘調査	6
	宮の前遺跡第34次発掘調査	7
III	鉢塚古墳発掘調査	8
	はじめに	8
	鉢塚古墳第1次発掘調査	9
	鉢塚古墳第2次発掘調査	9
	発掘調査抄録	12

## 図 版

### 図版 1 宮の前遺跡発掘調査

- (1) 第32次発掘調査 トレンチ全景（南から）
- (2) 第33次発掘調査 トレンチ全景（南から）

### 図版 2 宮の前遺跡発掘調査

- (1) 第34次発掘調査 トレンチ全景（南から）
- (2) 第34次発掘調査 上杭1（西から）

### 図版 3 鉢塚古墳発掘調査

- (1) 第1次発掘調査 トレンチ全景（南東から）
- (2) 第2次発掘調査 第1トレンチ全景（南西から）

### 図版 4 鉢塚古墳発掘調査

- (1) 第2次発掘調査 第2トレンチ全景（南から）
- (2) 第2次発掘調査 第3トレンチ全景（北から）

## 挿 図 目 次

### I 歴史的環境

第1図 宮の前遺跡堅穴式住居跡	1
第2図 遺跡分布図	2
第3図 妹三堂古墳堅穴式石室	3
第4図 豊島南遺跡掘立柱建物跡	3

### II 宮の前遺跡発掘調査

第5図 調査地位置図	5
第6図 トレンチ位置図	5
第7図 第32次調査トレンチ平面図	6
第8図 第33次調査トレンチ平面図	6
第9図 第34次調査トレンチ平・断面図	7
第10図 出土遺物実測図	7

### III 鉢塚古墳発掘調査

第11図 石室内十三重塔	8
第12図 調査地位置図	8
第13図 トレンチ位置図	8
第14図 第1次調査トレンチ平・断面図	9
第15図 第1次調査出土遺物	9
第16図 第1 トレンチ平・断面図	10
第17図 第2 トレンチ平・断面図	10
第18図 第3 トレンチ平・断面図	10
第19図 鉢塚古墳墳丘図	11

## I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1km、南北9.2kmの南北に細長い市域を有している。その位置は、西摂平野の北部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形をみると、市域のほぼ中央に五月山地が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山地より南には、緩やかな五月山丘陵が広がり、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかになっている。

### 旧石器時代

現在のところ旧石器時代に関するものは希薄である。遺物が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡・宮の前遺跡（螢池北遺跡）、宮の前西遺跡があげられるが、遺構に関しては未確認である。

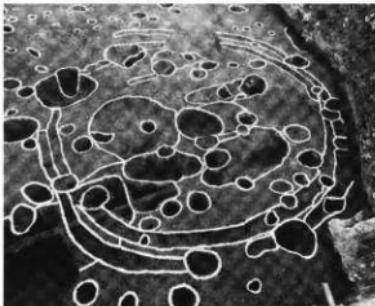
伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山地西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量ではあるがナイフ形石器、尖頭器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和61年度の大坂府教育委員会や平成元年度の豊中市教育委員会による螢池北遺跡で国府型ナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片1点が採取されている。

### 縄文時代

五月山丘陵に位置している遺跡では、上述した伊居太神社参道遺跡で、縄文時代のサヌカイト製の石鏃、京中遺跡ではサヌカイト製の石鏃・石匕が採取され、近隣の畠ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査においては、池田城跡下層からサヌカイト製の石鏃、晩期の生駒西麓産突帯文土器が出土している。一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鏃・石匕、宮の前遺跡では石棒が採取されている。豊島南遺跡では後期から晩期の土器が出土している。しかし、出土した土器は少量で、また、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落等の規模・性格等は明らかではない。

### 弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麓に位置する木部遺跡があげられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で本格的な調査がされていないため、詳細は不明である。



第1図 宮の前遺跡竪穴式住居跡



- |            |              |               |                 |
|------------|--------------|---------------|-----------------|
| 1. 鼓ヶ池遺跡   | 2. 古江古墳      | 3. 古江北古墳      | 4. 吉田遺跡         |
| 5. 古江遺跡    | 6. 木部道跡      | 7. 木部1号墳      | 8. 木部2号墳        |
| 9. 木部桃山古墳  | 10. 愛宕神社遺跡   | 11. 伊佐大神社参進道跡 | 12. 神三窓古墳       |
| 13. 神三窓所古墳 | 14. 清田城跡     | 15. 清田桑白山古墳   | 16. 五月ヶ丘古墳      |
| 17. 神塚北遺跡  | 18. 帯御1号墳    | 19. 帯御2号墳     | 20. 五郎山古墳       |
| 21. 神和南遺跡  | 22. 清音古墳群出土地 | 23. 神子山遺跡     | 24. 夏羽治遺跡       |
| 25. 神塚南古墳  | 26. 神子古墳     | 27. 神原山遺跡     | 28. 駒摩古墳        |
| 28. 石柄古墳   | 30. 神子尾古墳    | 31. 琴始寺遺跡     | 32. 宇佐郡名跡藤原神社古墳 |
| 33. 宇同遺跡   | 34. 神田北遺跡    | 35. 越摩古墳      | 36. 門田遺跡        |
| 37. 神田南遺跡  | 38. 天祥遺跡     | 39. 琴島兩跡      | 40. 住吉・富の前遺跡    |
| 41. 宮の前遺跡  | 42. 御兼山遺跡    | 43. 堕塚        |                 |

第2図 遺跡分布図

しかし、弥生時代前期から後期の土器が出土しており、池田市内では唯一弥生時代全般を通じて営まれた遺跡である。弥生時代中期においては、台地上に位置する場所で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縱貫自動車道建設にともない、大規模な発掘調査がなされ、方形周溝墓、竪穴式住居跡、土壙墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月山の丘陵上に位置する池田城跡下層、鼓ヶ滝遺跡、京中遺跡、愛宕神社遺跡等の遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ベット状遺構を伴う竪穴式住居跡が検出されている。また、台地では神田北遺跡においては、竪穴式住居跡、土坑が検出されているが、全体的に後期に入ると集落は五月山の丘陵に散在するようになり、小規模化する。

#### 古墳時代

池田市内で古墳時代前期に築造された古墳は、池田茶臼山古墳と娛三堂古墳が挙げられる。この2つの古墳の主体部は共に竪穴式石室である。池田茶臼山古墳は五月山塊より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娛三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、石室内からは画文帶神獸鏡が出土し、平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土櫛が存在することが確認されている。古墳時代中期に至ると小規模な低墳丘古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。古墳時代後期では善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2~3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。しかし、一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、異質の存在である。

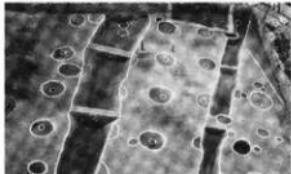
古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、これらの遺跡では、遺構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では布留式の土器を伴う焼失住居が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると少しではあるが、検出遺構も増していく。宮の前遺跡では竪穴式住居跡が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴式住居跡、溝が検出されている。

#### 歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡・溝跡が検出されおり、豊島南遺跡、神田北遺跡に



第3図 娯三堂古墳竪穴式石室



第4図 豊島南遺跡掘立柱建物跡

おいても奈良時代の掘立柱建物跡等が検出されている。寺院跡としては白鳳・天平時代の瓦が採取された石積廬寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、吳庭莊と関係するものとも考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、ついには、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山から南方へ張り出した台地上の南麓に位置する。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、博列建物跡等を確認している。

#### 参考文献

- 坂口重雄「地形と地質」『池田市史』各説編 1960年  
富田好久「考古学上に現れた池田」『新版池田市史』概説篇 1971年  
横高和明『原始・古代の池田』池田市立池田中学校地図部 1985年

## II 宮の前遺跡発掘調査

### はじめに

宮の前遺跡は池田市石橋4丁目、住吉1・2丁目、豊中市螢池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡である。その場所は、待兼山の丘陵より西方へ発達した標高約30m前後の洪積台地に立地している。この台地は、猪名川によって形成された沖積平野とは約10mの比高差を有する。周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、弥生土器、須恵器が採取された住吉宮の前遺跡が位置し、西方に高地性集落と考えられる待兼山遺跡、須恵器、瓦を生産した桜井谷古窯跡群が広がり、また、南方に当遺跡と同一の性格を有する螢池北遺跡、5世紀の掘立柱建物跡が検出された螢池東遺跡<sup>1)</sup>、国府型ナイフ形石器が出土した螢池西遺跡<sup>2)</sup>等が挙げられる。

当遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取され、遺跡の存在が知られるようになったが、本格的な調査が行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。しかし、昭和43、44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され<sup>3)</sup>、その結果、弥生時代中期の方形周溝墓、竪穴式住居跡、土壙墓等の他、古墳時代の堅穴式住居跡、古墳跡が検出された。特に、当時検出例が少なかった方形周溝墓が多く検出されたことから、住居域と墓域が同時に把握できる貴重な例として注目を浴びることとなった。また、奈良時代の掘立柱建物跡、井戸、平安時代の掘立柱建物跡等も確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識されるようになった。

その後、大阪府教育委員会、豊中市教育委員会、池田市教育委員会により、マンション等の開発に伴う事前調査で、遺跡の範囲も東西700m、南北900mと拡大している。また、昭和61年度の大坂府教育委員会による調査、平成元年度の豊中市教育委員会による調査で、国府型ナイフ形石器が出土し<sup>4)</sup>、当遺跡が旧石器時代までさかのぼることが判明している。

註 (1) (財) 大阪文化財センター『螢池東遺跡現地説明会資料』 1992年

(2) 豊中市教育委員会『摂津豊中 大塚古墳』 1987年



第5図 調査地位置図



第6図 トレンチ位置図

- (3) 宮之前遺跡調査会『宮之前遺跡発掘調査概報』 1970年  
 (4) 豊中市教育委員会『螢池北遺跡現地説明会資料』 1989年

参考文献

橋高和明編『原始古代の池田』池田市立池田中学校地歴部 1985年  
 富田好久「考古学上に現れた池田」『新編池田市史』概説編 1971年

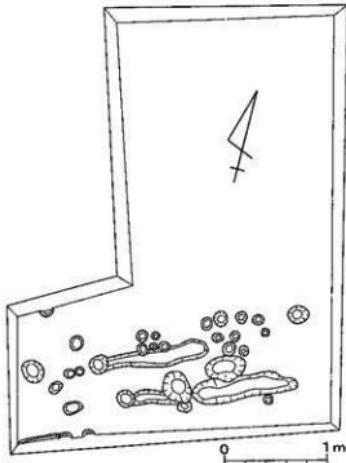
**宮の前遺跡第32次調査**

調査地は池田市石橋4丁目304-3に位置する。調査は個人住宅新築に伴い実施したものである。本調査地は、宮の前遺跡の北東端に位置する。今までの周辺の調査の結果、遺物包含層の存在が予想されるため、小規模なトレンチを設定し、調査を実施した。調査面積は9m<sup>2</sup>である。

**調査の概要**

層序は表土および盛土と地山の黄褐色粘質土からなる。

検出遺構は調査区南側から杭跡および溝跡を検出したが、それぞれ深さが10cm前後と浅い。出土遺物は、溝跡から検出されたが遺物はすべて小片で、図化はできなかった。弥生時代中期から中世に属するものと考えられる。



第7図 第32次調査トレンチ平面図

**宮の前遺跡第33次発掘調査**

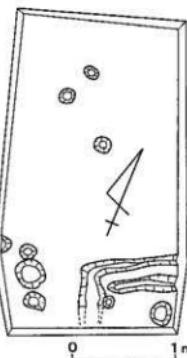
調査地は池田市石橋4丁目302-12・13に位置する。調査は個人住宅新築に伴い実施したものである。本調査地は宮の前遺跡第32次発掘調査地の東側に隣接している。発掘調査は調査地の南部に小規模なトレンチを設定し、調査を実施した。調査面積は6m<sup>2</sup>である。

**調査の概要**

層序は3層からなる。第1層は表土および盛土、第2層は黄褐色シルト、第3層は黄褐色粘質土の地山である。第2層は残存状況が悪く、途切れるところもあり一定ではない。

検出遺構は調査区全体からピットおよび溝跡を検出した。しかし、遺構の残存状況も悪く、時期決定も難しい。

出土遺物は第2層から瓦器碗等が出土した。しかし、小片のため図化はできなかった。



第8図 第33次調査トレンチ平面図

### 宮の前遺跡第34次発掘調査

調査地は池田市石橋4丁目304-11に位置する。調査は個人住宅新築に伴い実施したものである。本調査地は宮の前遺跡第33次発掘調査地の東側に隣接している。発掘調査は調査地の南部に小規模なトレンチを設定し、調査を実施した。調査面積は9m<sup>2</sup>である。

#### 調査の概要

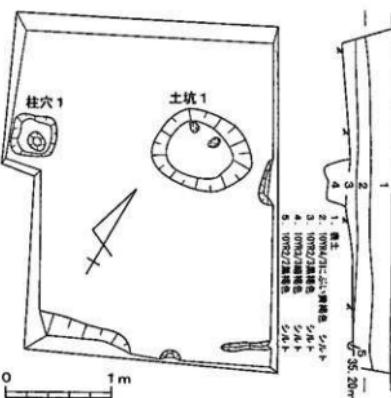
基本層序は4層からなり、第1層は表土および盛土、第2層は黄褐色シルト、第3層は黒褐色シルト、第4層は黄橙色粘質土の地山である。今回の調査地の土層は、隣接する第32次・第33次調査地とは異なり残りが良い。

検出遺構は、ピット、土坑などである。

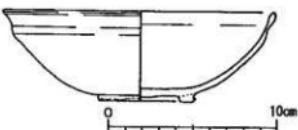
土坑1 94cm×74cmの大きさで楕円形をしており、深さ10cmで、第4層の地山面で検出した。出土遺物は瓦器碗（第10図）である。瓦器碗はほぼ完形で出土した。高台の断面は四角形をしているが、一部不成形な部分もある。また、残存も悪く暗文等は、はっきりとしない。

柱穴1 40cm×42cmの大きさで方形のピットで、深さ15cmを測る。第4層の地山面で検出した。北側のおおよそ2m離れた位置にSP-2があり、掘立柱建物跡等の復元に関わるかもしれない。出土遺物は瓦器碗などである。

今回の調査により、検出された柱穴や土坑などからはすべて瓦器碗等の中世遺物が見つかっており、調査地周辺には中世の集落の存在が推定できる。



第9図 第34次調査トレンチ平・断面図



第10図 出土遺物実測図

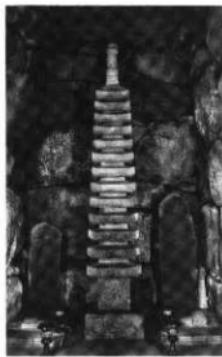
### III 鉢塚古墳発掘調査

#### はじめに

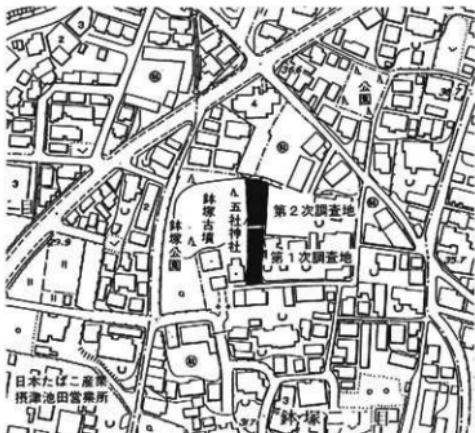
鉢塚古墳は、池田市鉢塚2丁目、五社神社の境内の中に位置している。古墳が位置する場所は、五月山から派生した丘陵の端に位置し、標高約40mを図る。

鉢塚古墳は形や石室の大きさから古く知られており、ウイリアム・ゴウランドの「日本のドルメンとその築造者達」の中で「テラスのある墳丘」と記され、末永雅雄『日本の古墳』では「塚は森に覆われて前方後円もしくは方形のようであるが、よく見ると円形の線が出ている」とある。また、同氏の『古墳の航空大観』には「長い年月の間に人工的加工があったために墳形は上円下方を思わせる現状に至り、周辺からの侵蝕を受け隆と見られる現状もそのためかもしれない」とあり、墳丘の形状については判然としていなかった。しかし、平成5年の池田市教育委員会（関西大学考古学研究室実測）の行なった墳丘実測調査から、約45メートルの円墳である蓋然性が高くなつた。

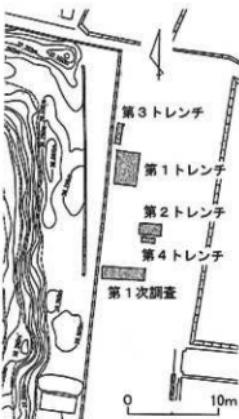
石室構造については、昭和9年梅原未治氏により実測が行なわれ、平成6年の池田市教育委員会（関西大学考古学研究室実測）の行なった石室実測調査によると、横穴式石室の全長が、14.88m、玄室の長さ6.48m、高さ5.2m、幅3.2m、羨道の長さ8.40m、高さ平均2m、幅平均1.8mである。石棺はなくなっているが、



第11図 石室内十三重塔



第12図 調査地位置図



第13図 レンチ位置図

石棺と考えられる石材が現廻門部に残っている。石室の奥には石造十三重塔（国指定重要文化財）・石仏・板碑が配置されている。

### 鉢塚古墳第1次発掘調査

発掘調査は鉢塚2-345-6において、個人住宅建築に伴い実施した。この場所は鉢塚古墳の東側に隣接地しており、古墳の周溝等が広がる可能性のある場所である。東西方向に長方形のトレンチを設定し、調査を実施した。

調査面積は9m<sup>2</sup>である。

層序はおよそ4層に分けられる。第1層は表土および耕土、第2層は暗褐色のシルト、第3層は黄褐色シルトで瓦器碗・土器皿等の中世遺物を多く含む、第4層は黄橙色の礫を多く含む砂質シルトの地山である。

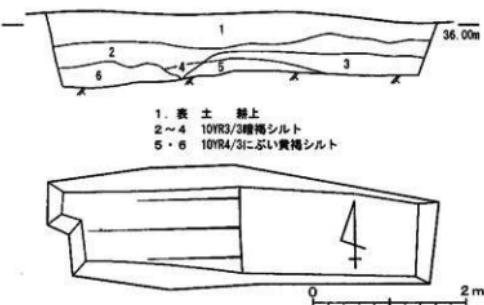
調査の結果、鉢塚古墳の周溝と考えられる明確な落ち込みは検出できなかつたが、トレンチ中央から西にかけて若干落ち込んでおり、トレンチ東側では地山面がT.Pレペル34.85mで水平にとどまっているため、そのことから、この調査終了時は、このラインが周溝外側のラインと考え、第3層は周辺に広がる中世の遺物包含層と考えていた。しかし、次の第2次調査の結果、周溝外側のラインが広がること、中世遺物包含層は周溝の埋土がわかる。

#### 出土遺物

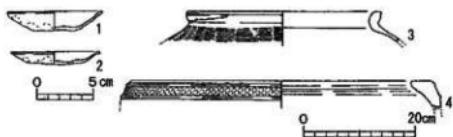
すべて第3層から出土したもので、①・②は土器皿で手ぐすねで体部を成形し、口縁部付近はナデで調整する。外面底部には指圧痕が残る。③は須恵質甕で口縁部はヨコナデで調整し、外面体部はタタキが残る。④は瓦質の火鉢で、外面に櫛紋が施されている。これら以外にも瓦器碗等が出上しているが、多くは①・②のような土器皿である。

### 鉢塚古墳第2次発掘調査

発掘調査は鉢塚2-345-5において、個人住宅建築に伴い実施した。この場所は鉢塚古墳の東側に隣接地しており、また、鉢塚古墳第1次発掘調査の北側に位置する。そのため、古墳の周



第14図 第1次調査トレンチ平・断面図



第15図 第1次調査出土遺物

溝等が広がる可能性のある場所である。古墳の周溝にかかると思われる場所にトレンチを設定し、調査を実施した。調査総面積は  $15 \text{ m}^2$  である。

### 第1トレンチ

調査地の西側に設定したトレンチで面積は約  $1.2 \text{ m}^2$  である。

層序は第1層は表土および耕土、第2層は暗褐色のシルト、第3層は黄橙色の礫を多く含む砂質シルトの地山である。

トレンチ北東隅、第3層の地山上から北西—南東に延びる周溝と考えられる落ち込みを確認した。工事の関係上、全面掘削はできなかったので、両壁面沿いに幅30cmの土層観察用の側溝を掘り、周溝の概要を確認した。周溝はT.P レベル 35.80m から落ち込んでおり、底はT.P レベル 35.00m で平坦となることから周溝の深さおよそ 80cm となる。

### 第2トレンチ

調査地の南側に設定したトレンチで、第1次調査の調査結果を再確認するため敷地の南側にトレンチを設定した。面積は約  $3 \text{ m}^2$  である。

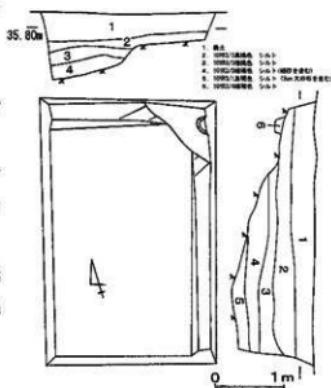
層序は第1トレンチと同じで、第1層は表土および耕土、第2層は暗褐色のシルト、第3層は黄橙色の礫を多く含む砂質シルトの地山である。

トレンチの中央部において、第3層の地山上から北—南に延びる周溝と考えられる落ち込みを確認した。周溝はT.P レベル 35.70m から西へ向かって落ち込んでいる。周溝の掘削は深さ 40cm ほど止めたが、第1次調査の周溝底 T.P レベルは 34.85m であったので、周溝の深さはおよそ 85cm となる。

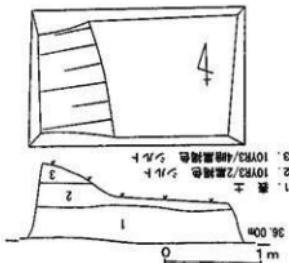
### 第3トレンチ

調査地の北側に設定したトレンチで面積は約  $2 \text{ m}^2$  である。

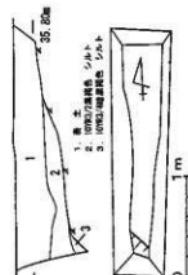
層序は第1・2トレンチと同じで、第1層は表土および耕土、第2層は暗褐色のシルト、第3層は黄橙色の礫を多く含む砂質シルトの地山である。トレンチ北側では第2層がなくなり、耕土の下に地山が堆積する状態である。



第16図 第1トレンチ平・断面図



第17図 第2トレンチ平・断面図

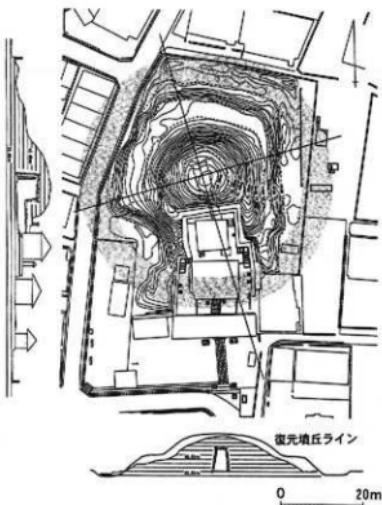


第18図 第3トレンチ平・断面図

トレンチ南端から北西—南東に延びる周溝と考えられる落ち込みを確認した。周溝はT.P レベル35.80mから南西に落ち込んでいる。

以上のトレンチのほかに第4トレンチ（1m×0.5m）を第2トレンチの南側に設定し掘削した。調査結果は第2トレンチの調査結果とほぼ同じで、周溝と考えられる落ち込みを確認したが、図版の掲載等は省く。

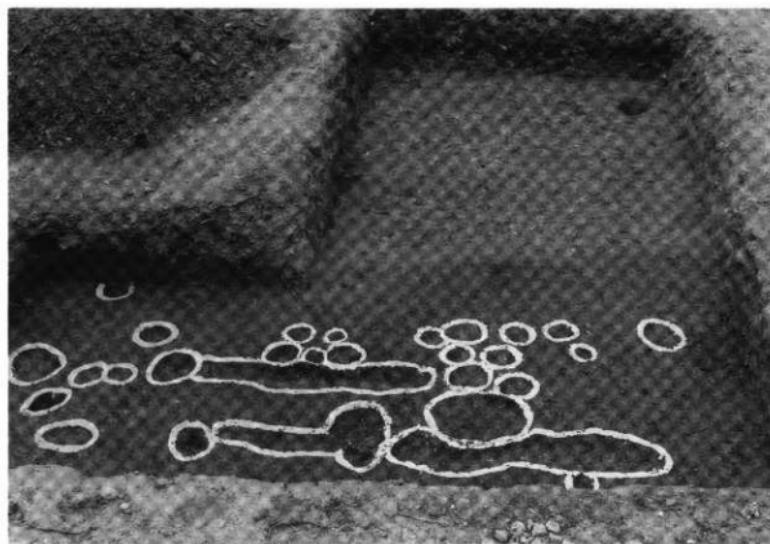
現在の鉢塚古墳は、上円下方墳に似た墳丘をしているため、上円下方墳との意見もあったが、今回の調査は、鉢塚古墳は周溝を有する円墳であることを裏付ける結果となった。調査結果から周溝の幅は約7m、深さ約80cmで、断面形は細長い逆台形と考えられ、周溝を含めた鉢塚古墳の直径は、約62mと推定される。



第19図 鉢塚古墳墳丘図

報告書抄録

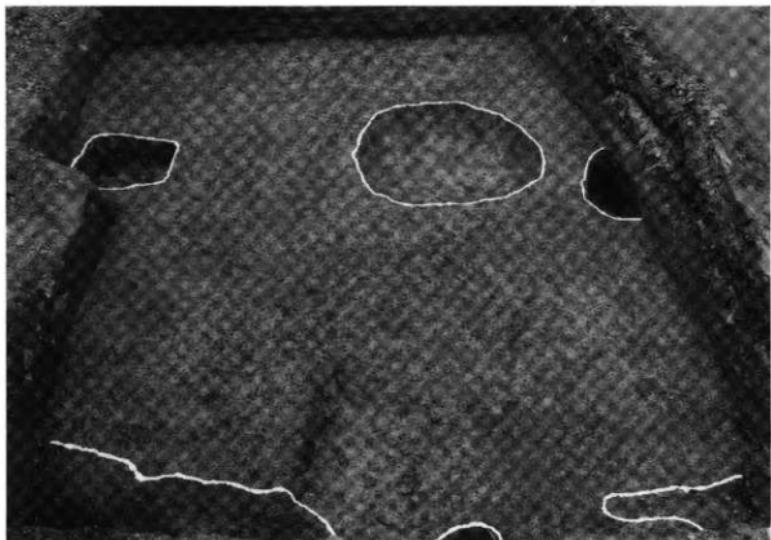
ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはつくつちょうさがいほう						
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報						
副書名	池田市文化財調査報告第27集						
卷次							
シリーズ名	池田市文化財調査報告						
シリーズ番号	27						
編著者名	中西正和						
編集機関	池田市教育委員会						
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号 Tel.0727-52-1111						
発行年月日	2002年3月29日						
所取遺跡	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
みやのまえ 宮の前遺跡第32次	いしばし 石橋4-304-3	272043	34度 47分 99秒	135度 26分 38秒	010427 ～ 010509	9 m <sup>2</sup>	個人住宅新築のための事前調査
みやのまえ 宮の前遺跡第33次	いしばし 石橋4-304-12, 13	#	34度 47分 99秒	135度 26分 38秒	010608 ～ 010613	6 m <sup>2</sup>	個人住宅新築のための事前調査
みやのまえ 宮の前遺跡第34次	いしばし 石橋4-304-11	#	34度 47分 99秒	135度 26分 38秒	010620 ～ 010625	9 m <sup>2</sup>	個人住宅新築のための事前調査
はちづか 鉢塚古墳第1次	はちづか 鉢塚2-234-6	#	34度 48分 50秒	135度 26分 20秒	010730 ～ 010807	9 m <sup>2</sup>	個人住宅新築のための事前調査
はちづか 鉢塚古墳第2次	はちづか 鉢塚2-234-5	#	34度 48分 50秒	135度 26分 20秒	010925 ～ 011005	15 m <sup>2</sup>	個人住宅新築のための事前調査
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
宮の前遺跡第32次	集落跡	中世	溝・杭	土師器等			
宮の前遺跡第33次	集落跡	中世	溝・杭	土師器等			
宮の前遺跡第34次	集落跡	中世	土杭・柱穴	瓦器等			
鉢塚古墳第1次	古墳	古墳・中世	周溝	瓦器等			
鉢塚古墳第2次	古墳	古墳・中世	周溝	瓦器等			



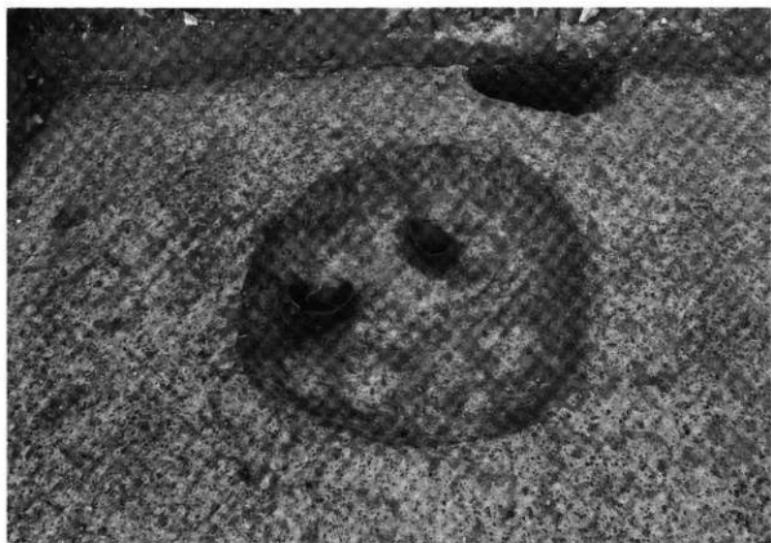
(1) 第32次発掘調査 トレンチ全景（南から）



(2) 第33次発掘調査 トレンチ全景（南から）



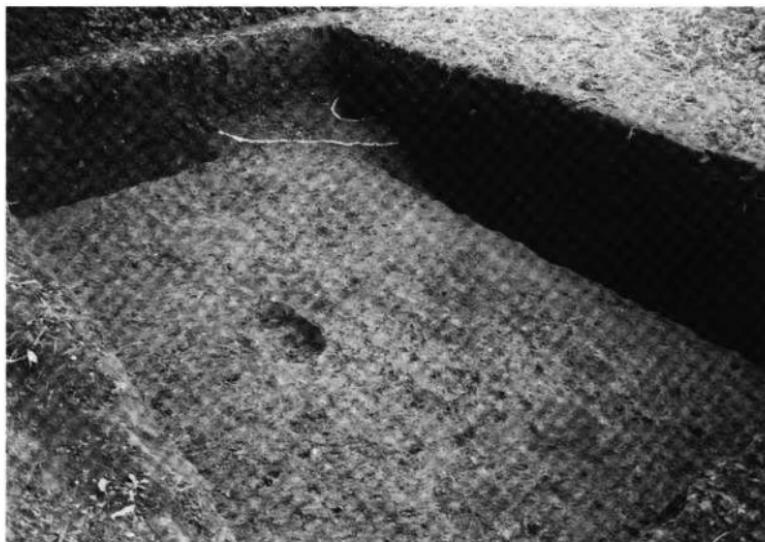
(1) 第34次発掘調査 トレンチ全景（南から）



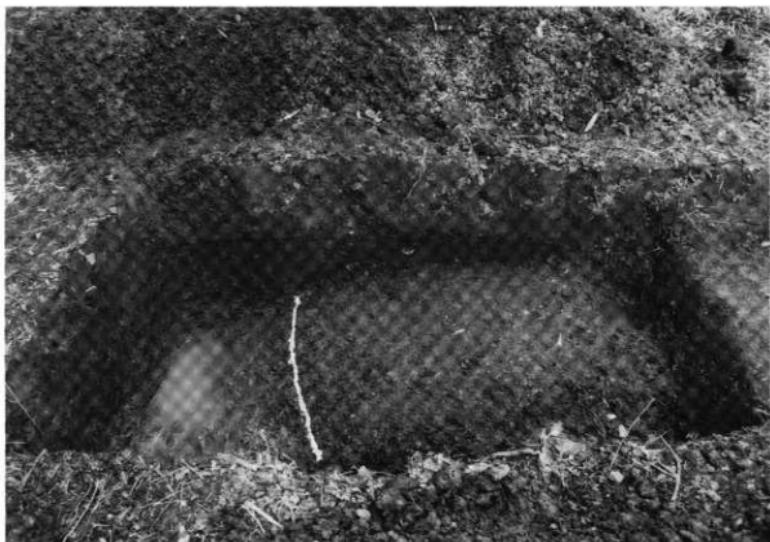
(2) 第34次発掘調査 土坑1（西から）



(1) 第1次発掘調査 トレンチ全景（南東から）



(2) 第2次発掘調査 第1トレンチ全景（南西から）



(1) 第2次発掘調査 第2トレンチ全景（南から）



(2) 第2次発掘調査 第3トレンチ全景（北から）

池田市文化財調査報告第27集  
池田市埋蔵文化財発掘調査概報  
2001年度  
2002年3月  
発行 池田市教育委員会  
池田市城南1丁目1番1号  
編集 社会教育課 文化財担当  
印刷 西村印刷株式会社